



日本舞踊 創松流 家元

創松 梅扇

SOUSYOU BAISEN

1989年 日本舞踊の師範となる
1992年 長唄・三味線 杵屋松扇次となる
1995年 創松流を立てる

日本舞踊に憧れたという経験をお持ちの方は多いのではないかと思います。柏崎市内に日本舞踊の宗家・家元があると知り、取材の機会を得た。創松流家元の創松梅扇(本名:目黒 美)さんは若くして創松流を立て、日本舞踊だけでなく、長唄・三味線の師範としても教えている。

日本舞踊を始めたのは3歳の頃。伯母の稽古に連れて行ってもらったことがきっかけで、初めて見た日本舞踊の魅力にすぐに取りつかれた。「いつもお稽古が楽しみで、楽しみで。お稽古が生きが이었다」とほほ笑む。

当時は日本舞踊が今よりも盛んで商家に生まれた女性は行儀見習いを兼ねて習う人が多かった。梅扇さんは、稽古の厳しさを嫌だと思ったことはなく、自分の身体で表現することが楽しかったと子供の頃を思い出す。

「着物を着たり、衣装を着て踊ったり、三味線を演奏したり。曲によってはドラマチックなものや連獅子のように激しいものもあり、舞台では様々な役になり切って無心に演じることができる。知らないうちに行儀作法や挨拶が身に付いているというのも魅力」という。

創松流を立てた時、それまでの流派の振りから新しい振り付けを作らなければならず、寝ずで何十曲も振り付けをした。「それも楽しかった。一つの曲の振りができあがった時はすぐに舞台上で発表したと思えるほど」だったと振り返る。

一般的には、踊りでも三味線でも教室を開くためには250曲ほどの手持ちがなければ教えられないとされている。師範となり柏崎に教室を構えて38年、三味線の松扇会は28年になった。好きということだけでは到達できない世界がそこにはある。

日本舞踊 創松流の家元となって26年目、「今の自分があるのは師事する師匠はもちろん、流派を超えてまでも心得を厳しく教えてくださった師匠の方々、後援会の皆様、そして梅扇・松扇次の母、中澤ミスにある」と感謝する。

日本舞踊や古典ものを始めようとする人が少なくなった今、梅扇さんは発表会に向けての準備を進めている。今回の発表会は唄、三味線、囃子など全ての曲を^{じゅうた}地方が生演奏することに加え、大道具や小道具、衣装、かつら、顔師、狂言、後見など華やかなプロの技も見ることができる。また、前回の公演から8年間の練習の成果と新名取の口上、創松流の舞踊、三味線の演奏と地方ではなかなか見ることのできない華やかな舞台が繰り広げられる予定だ。

「いつか、松扇会が地方、創松会が踊り手の立ち方を務めるような、両会だけで発表会をすることが目標。これからも10年20年と続けて努力していきたいと話した。

日本舞踊 創松会・ 長唄三味線 松扇会 発表会 **入場無料**

5月8日(土) 午前11時開場
柏崎市文化会館アルフォーレ
大ホール
*入場整理券が必要です

お問い合わせ

日本舞踊 創松会 柏崎市鯨波乙1154-2
長唄・三味線 松扇会 TEL 0257-22-4656

